
(仮)適当創作3

平林

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

(仮) 適当創作3

【コード】

N8494M

【作者名】

平林

【あらすじ】

とある疑問を持った猫の好奇心から始まる

戦場に行くことに決めたまいたいな。

ああ。

何でだ！もうすぐ式を挙げることになってるんだろ！！

婚約は解消した。

え！？

あいつは親同士が決めた相手ではなく、お前を選んだんだ。

お前はそれで良いのか？

良い訳ないだろ！！…良い訳ないだろ。けどなああいつは泣いてるんだ。あいつの涙を止めることが出来るのは、俺じゃなくてお前なんだ。俺には出来ないんだよ。

だけど、彼女と俺では身分が違い過ぎる。第一俺は戦場に行くことに…

安心しろ。そのことなら王に頼んでおいた。

頼んだ！？王に！？ちよつと何考えているだ！！一歩間違えたら絞首刑になるんだぞ！！

大丈夫だ。頼みは通った。戦場へは俺が行く。俺は絞首刑にならない。

おいおい、頼みが通って戦場に行かなくなったとしても身分の差が…

言っただろ。頼みは通ったって。王とは言え人の親、自分の娘が可愛いのだろうか。

本当に良いのか？

幸せにしろ、悲しませたら許さないからな。

ああ、生きて帰って来いよ。

俺を誰だと思っっているんだ？

それもそうだな。

必ず勝つ、そしてこの国を守る。

頑張れよ。

くとある小さな村

3

「てなことが戦いの前にあったんだ。」

『それでそれで?』

「後はみんなの知っている通り、戦いに勝ち、姫様も親同士が決めた相手ではなく好きな相手と結婚し、めでたしめでたしって訳。」

『ええー!!じゃあさ、じゃあさ、婚約者だった人は?戦場に行つてどうなったの?』

「城には、帰ってないな。」

『えっ?死んじゃったの?』

「それは…」

『ごらー！…何さぼってるの！…ちゃんと働かないと飯食わせないよ！…』

…はいはい、分かっております。小休憩小休憩。」

『まったく。』

ヒソヒソ

『…それでそれで、どうなったの？』

「それはね…」

歴史なんてもんは幾らでも捏造出来る。

やれ姫が恋人と裏で手を回して婚約者を亡きものにしただの、やれ婚約者が実は敵方の間者だっただの、やれe t c .

事実を知ろうにも、戦争じゃあ何があつたなんてそうそう解るもんじゃない…と思う。

ましてや、時が経つちまえばもつてのほか。

穴だらけの歴史書なんて、作家のいい遊び道具じゃないか…と思う。
何があったなんて、今更言いたくはない。

いいように書いて、綺麗にロマン溢れる夢物語が出来れば、俺はそれでいいと思う。

俺の気持ちは、俺が知ってればいい。

墓まで持って行こう。

困る人が現れようとも、俺は知らん。

勝手に困ってる。

人権侵害だ。

死んだらもう人ではないと言うのか？

それは違っだろう。

確かに、自分の事を後世に伝えたい！と言う奴もいるだろうが、その人の事を思うなら、静かに眠らせてあげようではないか。

それが、精一杯生きた人へのささやかな敬意だと俺は思うから。

だから、静かに眠らせてくれ。

バイバイ

「…てな資料があいつの家にあっただよ。」

『ほうほう、それで幼なじみが禁句となっておるのか。』

「そうそう、実際に白馬に乗った王子様に幼な…」何の話をしているのだ？お前は。「じ…み？」

『玄関の鍵は閉めた筈じゃが、どうやって入ったのじゃ？』

「すみません。窓が開いていたもので、つい。」

『あまり感心せんな。』

「すみません。こいつを連れて直ぐに出ますので。」

『むっ遊ぶ約束をしておったのか？聞いてなかったもんでな、出迎えをせず、すまなかった。』

「いえいえ、それでは…。」

ズルズルと何かを引きずる音と共に悲痛そうな叫び声が遠ざかっていった。

『 良い天気じゃない。 うむ、平和「平和じゃない！」 じゃ…な
?』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8494m/>

(仮)適当創作3

2010年12月31日21時25分発行